

# 地域医療崩壊寸前

北海道旭川市の二つの病院で発生した新型コロナウイルスのクラスター（感染者集団）が、同市周辺の地域医療に深刻な影響を落としている。東京や札幌など大都市圏と異なり、地方都市は医療体制が貧弱で、クラスターの発生が医療崩壊に一気に結びつく危険がある。

## 北海道・旭川 相次ぐクラスター

新型  
三口ナ

**新型コロナ**

感染が広がっている懸念もあり、病院側は院内での分娩を当面の間中止することを決定。分娩を控えていた40人はほかの病院で対応してもらうことになった。

しかし、40人のうち30人はすでにクラスターが発生した旭川厚生病院から移ってきたばかりの妊婦たちだった。2度にわたる病院変更は、出産を控えた女性たちに精神的にも体力的にも大きな負担を強いることになつた。

## 専門医偏在危機全国に

（旭）なほの局地的な問題ではなく、全國といふうしたことが起れる可能性が極めて高い。の日本記川後勇吉長はこの論調を唱へます。

先行派遣された調整役の陸上自衛隊員たちと打ち合わせをする看護官（左）＝北海道旭川市の吉田病院で9日（防衛省統合幕僚監部提供）

都道府県別 感染症専門医数	
北海道	40
青森県	8
岩手県	2
宮城県	32
秋田県	11
山形県	6
福島県	11
茨城県	7
栃木県	19
群馬県	8
埼玉県	59
千葉県	66
東京都	314
神奈川県	96
新潟県	23
山梨県	2
長野県	22
富山县	11
石川県	10
福井県	8
岐阜県	15
静岡県	34
愛知県	91
三重県	24
滋賀県	8
京都府	33
大阪府	75
兵庫県	48
奈良県	22
和歌山县	11
鳥取県	5
島根県	6
岡山县	27
広島県	28
山口県	13
徳島県	13
香川県	12
愛媛県	24
高知県	6
福岡県	122
佐賀県	12
長崎県	66
熊本県	19
大分県	20
宮崎県	16
鹿児島県	26
沖縄県	26

医師だけでなく感染症学者に対して専門的な知識や技術を持つ専門医も不足している。日本感染症学会の調査

※日本感染症学会の資料  
(2020年7月1日) より

さうじ、濃厚接触者などになった麻酔医3人が自宅待機となり、全身麻酔を伴う手術のローテーションが回らなくなつた。そのため、緊密度が低い手術を取りやめ、手術を予定していた複数の患者を一時退院させたといふ。

旭川赤十字病院の牧野憲一院長は「すでに通常の医療が行えなくなつていて、スタッフはぎりぎりの状態で、非常に逼迫している」と疲労感をにじませる。ほかの主要病院で新たにクラスターが発生したら、市内の医療体制はもうもたないだろう。

人口約33万人の旭川市は道北の中核都市。市内の1週間（12月2～8日）の人

旭川厚生病院では12月10日時点で患者258人が感染して25人が死」。吉田院では201人が感染し31人が亡くなつた。

北海道医師会の長瀬清会長は「すでに医療体制の崩壊に近い。旭川市の病院はその周辺地域の患者も診てある。これは旭川だけの問題ではない」と危機感を募らせる。【土谷純一】